OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	書を抱えてフィールドに出よう！
Author(s)	伊藤, 遼太
Citation	目で見るWHO. 2026, 97, p. 36-36
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106851
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

書を抱えてフィールドに出よう!



プラネタリーヘルス入門
地球と人類の健康のためにできること

著　者：國井修
出版社：みすず書房　2026年 2月発行

突然のゲリラ豪雨や記録的な大雪など、ここ数年の異常気象には危機感を抱いている方は多いのではないでしょうか。そうした日常生活に身近な環境問題が、私たちの健康と密接に結びついているという考え方「プラネタリーヘルス」を初めて学ぶ方に、ぜひおすすめしたい１冊です。

著者は国内のへき地診療から遠くはミャンマーやソマリアまで、様々な地域や立場で地球規模の健康問題に携わってこられました。本書には、そんな著者の途上国での豊富な経験と、分野横断的な研究を通して「人間の健康は地球環境なしには成り立たない」という地球人へのメッセージが込められています。

振り返ってみると、私たちの住む日本においても気候変動の影響は既に生活に及んでおり、また世界各地での紛争による影響も、決して他人事ではない新たな脅威となっています。かつての公害問題や幾度の戦争も、プラネタリーヘルスの視点で見ると、地球の健康を傷つけてきた一因なのでしょう。

一方で、日本には古くから、自然に畏敬の念を抱き、生命の循環の一部として生きてきた伝統があります。四季の移ろいを大切にし、自然との共生を重んじてきた日本古来の精神性は、現代のプラネタリーヘルスを支える基盤になるのではないでしょうか。本書を通じて、これからの時代は、人の健康という「ミクロ」な視点と、地球の健康という「マクロ」な視点の双方に目を向ける必要性を感じました。

（伊藤遼太）

読者のページ　（投稿募集）

編集委員会では、読者の皆さまにも参加いただき、双方向性の紙面づくりを目指したいということになりました。その第一歩として、読者のページを新設することにします。ここには読者の皆さまからのさまざまな意見、情報を紹介したいと考えています。以下の様な内容をお寄せください。

【フィードバック】目で見る WHO やその内容に対する建設的な提案、感想、質問などのフィードバック
【告知】健康に関する活動やイベントの告知、執筆された書物や映像の紹介
【報告】健康に関する活動やイベントの報告
【意見】健康に関する意見、論考などのエッセイ　　など

投稿ご希望の方は以下から 400 字以内でお送りください。（画像一点まで可能）

QR コードと URL　https://forms.gle/dhpgxG18mEFL9y9s6

なお、編集委員会で内容を査読し、また紙面の関係で掲載を決定しますので、お寄せいただいたもの全てを掲載できない場合があることをご了承下さい。